

Y. C. E. 交換留学生

HOMESTAY

受入れマニュアル

tigpi9



龍野ライオンズ・クラブ

目次

Table of Contents

I. ホームステイ受入れ者〔Host Family〕の基本的な心構え

II. ホームステイ受入れの秘訣

ー ホスト・ファミリー経験者からのアドバイス ー

III. 部屋の準備

IV. ホームステイ受入れの実際

到着

コミュニケーション/ことばの問題

風呂/トイレ

食事

プライバシー

アルコール飲料/喫煙

外出/外泊

金銭

怪我/病気

ホームシック

V. 生活一般/過ごし方

ホームステイ受入れを成功させるポイント

〈近所の商店街の散歩〉

〈ホームステイの青年を囲んでの家族の団欒〉

〈近所のお友達との交流〉

〈料理と一緒に〉

〈おけいこ事の見学〉

〈スナップ写真で思い出作りを〉

〈交通手段〉

〈ライオンズ・クラブとの関係〉

〈お土産について〉

VI. ホストファミリー体験談

VII. 最後に

I. ホームステイ受入れ者〔Host Family〕の基本的な心構え

1. 自己啓発のためにホームステイを受け入れるのだ、という気持ちを持ちましょう。
2. 外国人と私達日本人との間には、当然のことながら、文化・生活習慣・価値観・発想法（ものの考え方）・反応の仕方等々に違いがあります。ですから、
 - ① あなたの価値観・尺度等々を一方的に押し付けてはいけません。
 - ② 逆に、その違いを発見して、『違い』を楽しみましょう。そのことについて話し合うこともできます。 ---- 違いのわかる人、違いを理解し認め合うことのできる人を国際人というのだと思います。
3. これを機会に、地域と日本の伝統文化を多少とも学び、発見できるようになればいいですね。

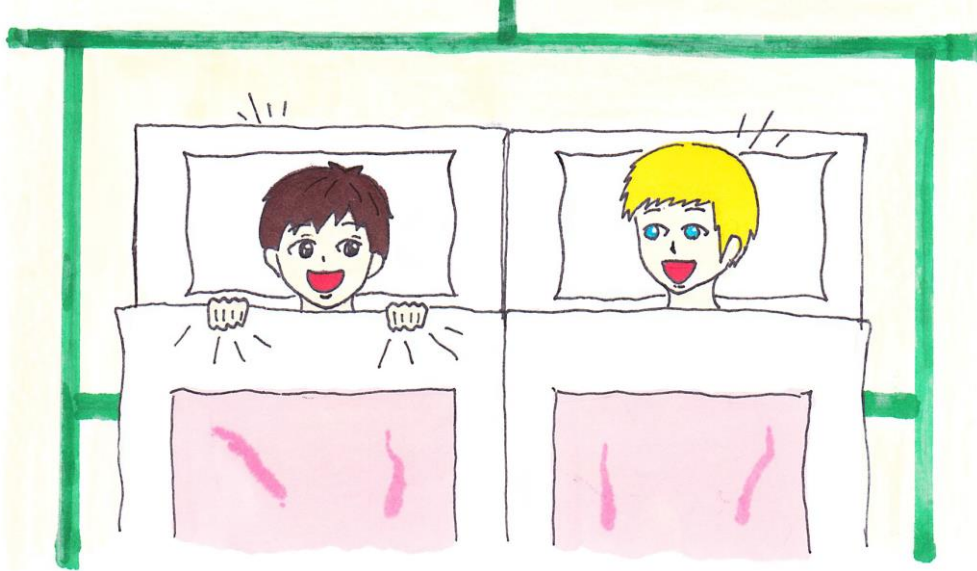
II. ホームステイ受入れの秘訣 - ホスト・ファミリー経験者からのアドバイス -

1. 決して無理しないこと
 - ・ お客様扱いしてはいけません。家族の一員として受け入れましょう。特に現在の家族の生活様式を変える必要はありません。普段のままの生活で構いません。
 - ・ ありのままの生活を共にすることを旨とし、自分の仕事・会合等の普段の生活まで犠牲にしないで、むしろいつもと変わらない生活の範囲で接するようにしましょう。
 - ・ 仕事も、家事も全て返上してまで、もてなしをするのは誤りです。
 - ・ 双方（外国青年と受入れ家庭）が別々に「くつろげる自由時間」を持ちましょう。
 - ・ 受入れ家族の生活における優先事項を示しましょう。
（例）子供の発熱、風邪、学校行事等
急用の発生
親族、知人の冠婚葬祭
職場での集い etc
2. 失敗を正直に話せる間柄になりましょう
 - ・ 小さな失敗を黙認していると、大きな失敗の時、どうやって解決すればいいのかわからなくなります。 外国人とのコミュニケーションにおいては、『沈黙は金』ではありません。言葉に出して言わないと通じない場合が多い。 はっきりと伝えましょう。 英語ができなくても、ニコッと笑いながらも、はっきりと“No!”と言って、しぐさで伝えることができます。
（例）風呂の栓を抜いてしまった
時間を間違えた
3. 喜怒哀楽を表に出しましょう
 - ・ 外国人との間ではとかく意思の疎通を欠きやすいものです。怒っている時は、怒っている顔でいいのです。

Ⅲ. 部屋の準備

Q: 個室がないが？

A: 構いません。 個室を与えることは絶対的な条件ではありません。 もし同性の子供がいれば、その子と同室させるのもいい考えです。



Q: 洋間がないが？

A: 和室のどこが悪いのでしょうか。むしろ、和室に布団を敷くという日本固有の物事を味わってもらう方が、ホームステイの意義をより高めることにも役立ちます。布団の敷き方や上げ下ろしの習慣を教え、毎日自分でさせましょう。外国の子供達はこれを喜んで、楽しくやりますよ。

Q: 和室の襖ではカギを掛けられないが？

A: 襖の暗黙のルールを教えましょう。また、ゲストが襖を閉めているときは、声を掛けるかノックするかしてから入室するよう家族一同心がけましょう。 逆も同じです。

Q: 浴衣や寝間着を用意しなくてはいけないか？

A: いいえ。 通常、自分のパジャマか何かを持って来られます。
(ホテルに泊まるのではないのですから！)

IV. ホームスティ受け入れの実際

到 着

- 初めから苗字ではなく First Name で呼んであげてください。
(例) Nancy White (ナンシー・ホワイト) はナンシーが First Name ですから、ナンシー (又はナンシーさん) と呼んであげましょう。

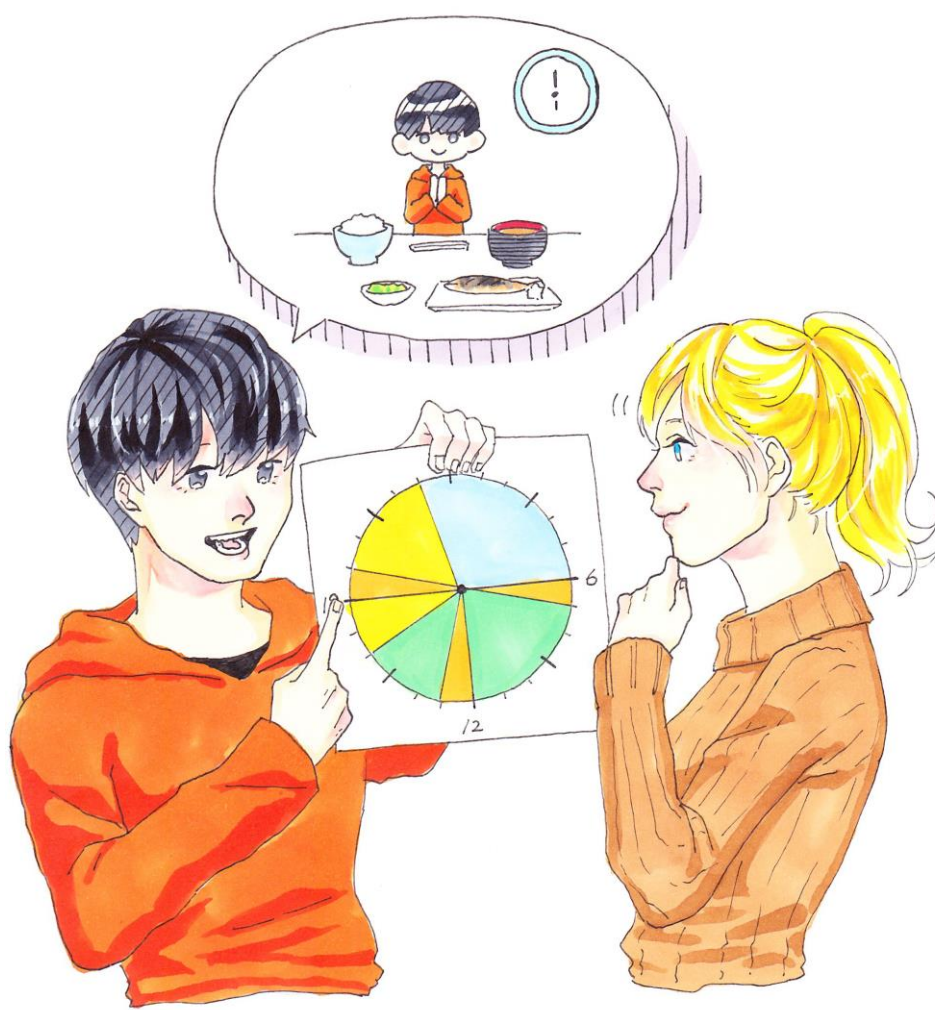


- また、呼びにくい名前は短くして呼ぶ習慣があります。
「ロバート」君は「ボブ」、 「エリザベス」さんは「ベス」、 「つとむ」君は「トム」などと、呼びやすいように一緒に工夫してみるとよいでしょう。

● 家に着いたら、次の事は話し合っておきましょう。

- (1) 家族全員一人ひとり紹介しましょう。(名前を書いてあげて下さい。)
- (2) 起床、就寝、食事、入浴等、家族の生活時間を説明する。(言葉が通じない時は、予め一日の時間帯を書いたものを用意しておいて、ジェスチャーで示してあげるとよいです。)
- (3) 寝室として使用してもらう部屋、風呂、トイレ等の場所を教える。布団を使用するときは、寝具がどこに納まっているか、どのようにして使用するかも教えましょう。
- (4) 本人の健康状態を尋ね、また治療用の薬を使っているかどうかを確認して下さい。
- (5) あらかじめ家の近辺の略図を用意しておき、説明してあげるとよいでしょう。
- (6) 家庭のしきたりや滞在中の過ごし方や計画などについて話し合えば安心されます。留学生の希望をすべてかなえてあげる必要はありません。できることと、できないことをはっきりと説明してあげてください。日本と外国では社会的なモノサシが違うことを知るのは、ゲストにとってよい勉強です。
- (7) あなたの家庭の習慣・規則・あるいはそれに類することを教え、守らせて下さい。
「靴を脱いで家に上がる」を初めとして、洗濯、冷蔵庫、風呂、シャワー、電話等の使用について、してよい事といけない事をはっきりしておくことが必要です。

(※ うまく伝えられない時や、ご要望があれば、ライオンズ・クラブまで御連絡下さい。)



心は通じる（言葉はできなくても） *Heart to Heart Communication!*

- 英語（外国語）でうまく表現できないと思っても、伝えようのする努力によって、相手もこちらの気持ちをわかってくれます。
- 少しぐらい通じないことが起きてもあわてないこと。臆せず積極的に話しかけて下さい。また、どんな小さなことでも話しかけてあげると、こちらの気持ちが通じるようになります。ジェスチャーでも十分に意が通じます。
- 英語（外国語）で言うのは億劫で、つい一言も言わずに済ませてしまいがちですが、それが誤解のもとになります。言わずに済ますよりは、通じなくても日本語で話しかける方がよいのです。話しかけられないと、相手は「自分は関心を持たれていない」、「自分は好かれていない」と受け取ることがあります。
- 相手の言うことがわからない時は、もう一度ゆっくり言ってもらうか、紙に書いてもらうといいでしょう。日本語もどんどん教えてあげて下さい。そのためにも日本語で話しかけても構いません。また、和英・英和辞典もお互いに活用してください。留学生のことばを覚えてもらうのもいいでしょう。
- 「外人（ガイジン）」ということばは、彼らの耳にはあまり快く響かないようです。「外国人」または「外国の人」と言いましょう。
- 言語面ではお互いに不十分な点が多々出てきますので、話す時の態度、視線、顔つきなど、できるだけストレートな印象を与え、何かウラのあるような印象を与えぬように注意が必要です。きちんと目を見て話すように努めましょう。
- 家族の一員として来てくれたこと、打ち解けてくれたこと、何か仕事をしてくれたことなどに対して、感謝する気持ちは積極的に表現していきましょう。「ありがとう」の一言がとても大切です。
- ホームステイに来る青年達は、世界中の国々の中から日本をホームステイ先の国として選んで来ているのだ、ということをよく理解しましょう。日本の文化や生活様式は勿論のこと、日本語にも当然興味を持っています。日本語をある程度勉強してから来る子も多くいます。ですから、日本語で話しかけてあげることが良いのです。逆に、もし、ホスト家族全員英語が達者で、全て英語で話しかけたらどうなるのでしょうか。がっかりさせることにならないでしょうか。



風呂/トイレ

- 日本式風呂の入り方/トイレの使い方を英文・和文両方で説明したしおりをホスト・ファミリーにお渡ししますので、それを活用して下さい。
- 浴槽内で石鹸を使ったり、自分一人の入浴が終わったら栓を抜いて湯を流してしまわないように、注意しておきましょう。
- 様式トイレがあれば理想的ではありますが、わざわざ改造する必要はありません。日本式トイレの場合はあらかじめ使い方を教えてあげて下さい。



食 事

- 家族の食事時間をはっきり伝え、守ってもらうようにしましょう。
- 毎日している普通の食事を心掛けましょう。例えば、「アメリカ人だから肉食」等という先入観にとらわれることのないようにしましょう。また、品数を多くしなければと心配する必要もありません。
- 偏食やわがままからでなく、体質的に（アレルギー等）、あるいは信仰上の理由から食べないものがあるかどうか、尋ねて下さい。そのような食べ物がある場合には、尊重してあげましょう。（※ 交換留学生本人が日本に来る前に、母国のライオンズ・クラブから送られてくる資料でこのことはあらかじめ解るようになっています。）
- 食事習慣の違いから、食べにくいもの、気味悪がるものもあると思います。しかし、相手の反応をあまり気にせず、一応食卓に出してみるのがいいでしょう。試しに食べてみようという雰囲気を作ってあげるのも一つの方法と思います。でも、無理強いさせることは避けましょう。
- 日本人客に勧めるのと同じように、外国人にしつこく勧めるのは止めましょう。外国人（特に、欧米人）は私達日本人よりもはるかにはっきりと、Yes は Yes、No は No と意思表示する傾向があります。
- 珍しさのあまり、食事中に相手を見つめないようにしましょう。だれでも見つめられるのはいやなものですから。
- 食事には、料理の味や種類への配慮ばかりでなく、楽しい話し合いの場となるような話題の選択や雰囲気作りへの配慮も含まれます。その意味からも、食事の準備や買い物と一緒に出かけるのも効果的です。
- 水や牛乳を飲む人が多いので、食卓にグラスを用意し、何を飲みたいか聞いてあげて下さい。また、ナプキンか、ティシュペーパーを添えてあげるのも親切です。箸を使えないかも知れないので、ナイフとフォークを用意してあげるのも良いでしょう。

プライバシー

- プライバシーは厳守です。個室にむやみに入るとか、個人的な問題に口をはさまないようにする等の配慮が必要です。また、異性の部屋に入る場合は、戸をあけたままにするようにしましょう。

アルコール飲料/喫煙

- 飲酒と喫煙は、年齢の如何に係わらず、決して勧めないで下さい。

（飲酒と喫煙は禁止事項となっています）

外出/外泊

- 外出の際に道に迷ったり、はぐれてしまった時のために、必ずホスト・ファミリーの住所、氏名、電話番号を明記したカード（本人にも読めるようにローマ字を併記して）を作り、それをいつも持たせて下さい。

Tatsuno-shi, Tatsuno-cho Honnmachi 335-7

たつの市龍野町本町 3 3 5 - 7

Yamada Jyunya

山田 純也

TEL (0791)62-5555, 090-8823-4900

- 単独の外泊は、原則として認められません。また、昼間の単独の無断外出も許さないで下さい。
- 特に危険が予測される海・山などを旅行する場合は、必ずライオンズ・クラブまで事前に連絡してください。クラブの責任者が付き添って行くことになっております。

金 銭

- 何もかも全てホームステイ受け入れ側が負担する必要はありません。次のような個人的なものは、当然本人が支払うべきであります。
買い物、クリーニング、娯楽、観光費用、怪我・病気の際の治療費用、
郵便料金、長距離電話（特に海外へのもの）
- ホースステイ者との金銭の貸し借りは止めてください。

病気/怪我

- 病気、怪我の場合はあなたのかかりつけの医者に連れて行って下さい。その場合、費用はその子に払わせて下さい。
- 病気、事故等、不慮の出来事の場合、あわてず冷静に対処し、ライオンズ・クラブ事務局まで御連絡して下さい。

ホームシック

- ホームシックに罹った場合は、同国人の友達と会わせて話をさせたり、スポーツや学生同士のミーティングを持たせるとか、一日中多忙にして余計な暇を与えぬようにするのも良策でしょう。軽症のうちに手を打つ必要があります。

V. 生活一般/過ごし方

ホームスティを成功させるポイント

- ① お客様扱い（特別扱い）をしては絶対にいけません。家族の一員として扱きましょう。自分の子供の友人を預かる感覚で！
- ② 自分達の日常生活を変えてはいけません。日常のありのままの生活を！
- ③ 自分の子供同様に自由にさせてあげて下さい。でないと、お互いに疲れてしまいます。
- ④ 冷蔵庫を勝手に開けても（使っても）いいようにさせてあげることに。

一所懸命にもてなそうとして特別な観光コースを組んだりすることは、ホームスティの本来の目的ではありません。彼らを家族の一員として一緒に過ごし、普段のありのままの生活を共にすることで、私達の日常生活に触れさせてあげましょう。私達の慣れ過ぎてしまっている、ほんの小さなことにこそ、彼らは新鮮な驚きや喜びを得るでしょう。物ではなく、心でもてなすということを念頭に置いてください。

次に、いくつかの過ごし方の例を挙げておきますが、勿論これらにとらわれる必要はありません。

近所の商店街の散歩

食事の買い物などに、一緒に連れて行ってあげたら如何でしょう。小さな商店街やマーケット街を散歩すれば、彼らはお祭りを見るように、胸をときめかすことでしょう。日本独特のお豆腐屋、うどん・そば屋さん等の見て歩きや、郵便局でエアメールを出すのも面白いでしょう。（今の時代、子供達は皆 SNS でやり取りしますが、だからこそエアメールを出す経験が面白いのです。）

但し、道を歩く時は「車の左側通行」をよく理解させ、事故を未然に防ぐようにして下さい。



ホームスティの青年を囲んでの家族の団らん

外国の若者を囲み、家族で団らんをしてはいかがでしょうか。ケン玉やあや取りなどができる人が家族にいれば、一緒に楽しむのもいいし、習字を教えてあげるのも面白いです。

日本の生活習慣や文化について、おおいに話してあげましょう。彼らは日本に興味があって、日本に来ているのですから！英語や彼らの母国語が話せなくても、日本語と身振り・手振りで多くのことを伝えることができます。

近所のお友達との交流

近所のお友達を招き、地域社会のちょっとした国際交流はいかがでしょうか。その子と同年齢の近所や親戚の子や、社交好きな人が集まると楽しく交流できる場合が多いです。BBQ を計画して、その買い物から炉の準備まで、本人に手伝ってもらってワイワイやると盛り上がります。但し、やり過ぎないようにしましょう。

料理作りを一緒に



台所へ一緒に入って、包丁さばきでも見せてあげてください。（女の子の場合でも、男の子の場合でもです！）キャベツの千切りでも十分です。簡単な下ごしらえを彼らにお手伝いさせてあげてください。日本特有の料理器具・方法に触れるのも勉強です。また、本人に自慢の料理があれば、作ってもらうのもよいでしょう。

おけいこ事の見学

近所に、お茶、お華、琴、三味線、日本舞踊、剣道、柔道等々、日本の伝統的なお稽古事を教えたり、趣味として行っている家庭があれば、是非案内してあげてください。日本の伝統と接するまたとない機会となるでしょう。



スナップ写真で思い出作りを

日常の折々に触れ、彼らと一緒にスナップ写真を撮ってはいかがでしょうか。彼らにとってはいい思い出となります。

交通手段

外出にはタクシー、自家用車よりも、鉄道、バスを利用したほうが多くの発見につながります。また、彼ら自身の手で切符を買わせるのもいい体験です。

たとえ本人が国際免許を持参していたとしても、自動車やオートバイの運転は絶対にさせないようにして下さい。

ライオンズ・クラブとの関係

ホスト家庭は、ライオンズ・クラブと積極的に連絡を図り、例会やその他「地区主催の行事・クラブ行事」に参加させたり、他のクラブの行事にクラブ会員と一緒に参加することも肝要です。

お土産について

お土産として、特別に高価なものを持たせることはやめましょう。これは誤りです。記念として何かをあげたいのなら、帰国時の飛行機の重量制限や、持ち運びのことも考えた上で、日本的で簡単なものの方がいいでしょう。本人の日本語表記の名前を考えてあげて（漢字でもかな/カナでも）、印鑑を作ってプレゼントしてあげると大変喜ばれることが多いです。

私達はとかく贈り物をし過ぎる傾向があるので
ご配慮下さい。



オーストラリア人女性 (16 歳) を受け入れて

ホームステイ受入れは初めてだったが、日本には4回目の学生さんで、日本語も熱心に勉強中で片言でも話ができて、お世話もしやすかった。 姫路 LC 田上龍太郎

初めは少し恥ずかしそうにしていたましたが、簡単な日本語も上手に話し、家族とも徐々に打ち解けホットしました。食べ物も好き嫌いなく、何でも「おいしい」と言って食べてくれ、助かりました。

加古川清流 LC 岩本智代

クロアチア人女性 (21 歳) を受け入れて

違う文化を体験したかったので日本を選んだらしく、いろんなことに興味を示していた。日本食にも関心があり、色々とチャレンジしていたが、「とろろ」や「ひじき」はだめだったようだ。高校生の娘が刺激を受け、英会話のスキルアップに繋がったことは大変嬉しかった。 加西 LC 市場博幸

突然の YCE の受入れでしたが、facebook 等で前もって情報をいただいていたこともあり、遠いクロアチアからの来日生を不安なく受け入れることが出来ました。10日間という短い期間でしたが、彼女にとって大きな思い出になってくれれば嬉しいです。

加西 LC 小川初男

これまで何度か YCE 生を受け入れましたが、女性は初めてで少し不安でしたが、大変聡明な彼女は日本の文化を吸収しようと、何事にもチャレンジしていました。私たち家族にとってもクロアチアの文化、歴史、生活を知ることになり、とても印象に残る受け入れになりました。 西脇 LC 宮崎春貴

マレーシア人女性 (17 歳) を受け入れて

初めての受入れで少し不安でしたが、カイー（学生）は大変明るく、人なつっこい性格だったので家族ともすぐに仲良くなり、楽しい時間を過ごすことが出来ました。最後のお別れの時は、涙が出そうになりました。 龍野 LC 三宅千秋

ホストファミリーを考えたことはありませんでしたでしたが、今回受け入れをさせていただき、私も家族も貴重な体験に、今では感謝しています。三人の娘とも仲良く、もう一人娘が増えたような気がして、楽しい日々が送れました。

姫路白鷺 LC 福永恭介

シンガポール人女性(16 歳)を受け入れて

YCE 生（学生）を受け入れるのは、特別なことをするのではなく、普段のままで受け入れることが一番いいということを改めて感じた8日間でした。世界中の人々が仲良く手を繋いでいく心が大切だとも思いました。 温泉町 LC 西村正行

自己紹介を日本語で出来る事に驚きました。豊岡でも着物の着付けや陶芸、蕎麦打ち等、日本の文化を出来るだけ体験してもらいました。今回の受入れでは異文化交流を体験でき、家族も感謝しています。

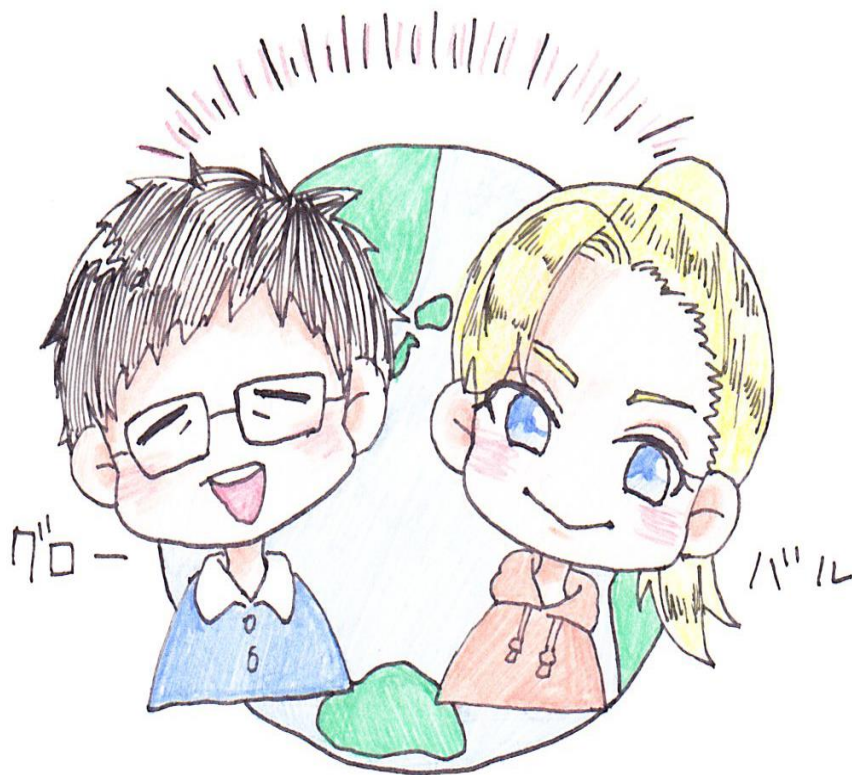
豊岡亀城 LC 中奥俊明



VII. 最後に

外国にホームステイをしたり、逆にホスト・ファミリーとして受け入れられますと、生活上の多くの点で「行動の違い」に気付くことがあります。これが相手の文化を理解し、こちらの文化を理解してもらう絶好の機会となります。両文化の優劣や正誤を論ずることなく、小さな驚きや発見を大切にしながら、それぞれの文化を理解しようとする方向へ向かって行きたいものです。そのためには、時として、お互いに譲り合うことも必要でしょう。

ホースステイの真の慶びは、外国人との異文化間交流を通じての、同じ人間同士としての温かい心と心の交流にあります。それは、やる気さえあれば誰にでもできます。 時には、衝突や失敗もあるでしょうが、それらの経験を通じて、私たちの視野を広げ、世界に通用する価値観を形成していくことができると確信します。



発行	龍野ライオンズ・クラブ
製作	龍野ライオンズ・クラブ 青少年指導クエスト・YCE 委員会
挿絵協力	兵庫県立龍野北高等学校デザイン科
発行年	2018年5月28日